

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)	◎	一般小売店〔土産〕（経営者）	・当地区はこれまで隣接する都市部からの観光客に助けられてきた面があるが、Go To Travelキャンペーンの対象地域に東京も含まれるようになったことから、本州からの観光客が増加している。新型コロナウイルスの感染防止と経済の拡大を両立させる今の政府の手法に期待を持てることから、今後の景気は良くなる。
	○	商店街（代表者）	・例年どおりの傾向であれば、年末年始にかけて景気が良くなるため、そのようになることを期待するばかりである。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスに対する一種の慣れのような感覚が消費者にみられ、神経質な反応が薄らいできている。また、Go To Travelキャンペーンも消費に好影響を与えていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（売場主任）	・高額商材に動きが出てきていること、催事などへの来客数が増えていることなどから、新型コロナウイルスについて現状の小康状態が続くことになれば、今後の景気はやや良くなる。
	○	百貨店（販売促進担当）	・年末に向けて人の往来が増え、消費も増えてくることを期待している。ただ、新型コロナウイルスについての懸念材料も増すことが見込まれるため、景気が前年並みの水準に回復するまでしばらく時間が掛かるとみられる。
	○	スーパー（店長）	・Go Toキャンペーンなどの景気回復策について、賛否はあるものの、外出の起爆剤となっている面は否定できない。また、地域共通クーポンを使用して通常の買物をする客も一部でみられることから、特別定額給付金のときほどではなくても、消費拡大につながることを期待できる。
	○	スーパー（役員）	・今年のクリスマス、正月は家庭内で過ごす機会が増えるとみられるため、これからケーキやおせちなどの消費が活発になることが見込まれる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの影響は今後も続くと思われるが、景気は徐々に回復すると見込まれる。
	○	家電量販店（経営者）	・暖房機器などを中心に販売量が伸びていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	家電量販店（店員）	・プレミアム付商品券の効果が期待できるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・受注残が増えてきている状況から、今後、新車の供給体制の改善が進むにつれて景気はやや良くなる。
	○	旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの状況次第の面があるが、今後の景気はやや良くなる。
	○	通信会社（企画担当）	・新料金プランの導入に伴い、学生向けの割引プランが充実していることから、若年層を中心とした需要の回復が期待できる。
	○	観光名所（従業員）	・Go To Travelキャンペーンを利用する観光客が思いの外多くみられる。また、こうした客層では、地域共通クーポンを上手に使うという傾向もみられる。このため、Go To Travelキャンペーンが予定されている1月末までは、現在の好調な状態が続くことになり、落ち込んだ景気を引き上げることになる。
	○	美容室（経営者）	・全国及び各地域の景気浮揚策の影響が、当店においても多少はみられることになる。
	□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染が収束するなり、ワクチンが開発されるなどの対策が明確にならない限り、新型コロナウイルスの流行以前の状況には戻らない。今は経済を少しでも回すため、不公平な部分はあったとしてもGo Toキャンペーンなどの対策を行っているが、抜本的な景気回復とはなっていない。経済を回復させるためには消費税の減税又は廃止が必須である。
□	商店街（代表者）	・今後については、新型コロナウイルス、インフルエンザの両方の感染リスクを回避する意味もあり、来街者の少ない状態が継続することになる。また、店舗によっては密接、密集を回避するため、年始の売出しの時期をずらす可能性もある。これらのことから、区域全体として来街者の一時的な増加も見込めない状況にある。	

<input type="checkbox"/>	百貨店（役員）	・現状、前年の消費税増税とコロナ禍がどの程度影響しているのかがよくみえないことから、今後についても、どのようになるのかわからないというのが正直なところである。
<input type="checkbox"/>	百貨店（営業販促担当）	・当地では11月後半からプレミアム付商品券が購入できるようになるが、その効果は瞬間的なものにとどまり、今の消費傾向が大きく改善することは期待できない。ファッションへの支出は抑えられ、家庭内のグッズ、カジュアルな衣料品などの部分的な支出にとどまるとみられることから、今後も景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	スーパー（店長）	・来春までは、現在の状況が継続する。景気が回復基調となるには、もう少し時間が掛かるとみられる。
<input type="checkbox"/>	スーパー（役員）	・ここに来て、新型コロナウイルスの感染者が道央圏で増加しており、それが地方部まで飛び火している。Go Toキャンペーンで人が動き出しているが、一部の客層が新型コロナウイルスの感染を恐れることで、単籠り需要が再び増加することも考えられる。そうなれば、食品小売業の景気は現状よりも上向きとなる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当）	・コロナ禍のなか、これまで補助金などの効果で延命できている企業が多いが、この先は企業の倒産が増加することが懸念される。周りの飲食店の売上減少が当店の売上にも影響すること、前年はキャッシュレス・消費者還元事業の影響で売上が伸びていたことなどを考慮すると、景気は悪いままで変わらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスが終息して周りの飲食店に活気が戻らない限り、飲食店から流れる客の来店も期待できない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（経営者）	・前年の新車販売は消費税増税前の駆け込み需要の反動による影響を受けていたが、今年10月の販売量は前年の落ち込み幅を大きく上回る増加となっていることから、今後も新車市場の活発化が続くと期待できる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの状況次第であるため、2～3か月後の景気はまだ分からないというのが正直なところである。今後、北海道独自の警戒ステージが更に引き上げられることになれば、客足は相当鈍ることになるが、そうならなければ今よりは多少景気が良くなる。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・今冬のボーナスが前年並みの支給となりそうなことから、今後も景気は変わらない。ただ、新型コロナウイルスの第3波が懸念されることから、客の外出が控えられることが心配される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況が改善したり、国による対策などが取られない限り、現在の状況はしばらく変わらない。
<input type="checkbox"/>	自動車備品販売店（店長）	・カー用品専門店として、必要品を購入する客の来店は見込めるが、それ以外の客の来店は見込めない。特に新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあるなか、用事のない店舗に足を運ばないことが感染拡大防止につながると考える客が増えるとみられる。
<input type="checkbox"/>	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	・新型コロナウイルスの感染者の増加が懸念されることから、今後も景気は厳しいまま変わらない。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営者）	・Go Toキャンペーンなどによって人の流れが増えていることで、北海道の新型コロナウイルスの感染者が増えている状況にある。このまま感染拡大が続くことになれば、インフルエンザが流行する時期と重なることもあり、大きな流行となり、客が減っていくのではないかと懸念している。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（スタッフ）	・せっかく上り調子になりつつあったが、Go To Travelキャンペーンなどの影響で10月末から新型コロナウイルスの感染者が増加していることで、営業自粛などの暗い話題も再び始めている。食に関するイベントについては、主催者の感染防止策が向上して安心感があるため、今後の景気対策のきっかけとしていきたい。
<input type="checkbox"/>	観光型ホテル（スタッフ）	・Webを経由した個人旅行、募集型旅行が回復基調にあるものの、需要を喚起するような大型のイベント、大会の催行がないことから、今後も景気は変わらない。

□	旅行代理店（従業員）	・ここ最近、北海道内の新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向となっていること、有効なワクチン開発には程遠い状況であることから、法人や組織が団体旅行を始める環境には当分ならない。少なくとも年度内は現状の取扱いの少ない状況が継続する。
□	旅行代理店（従業員）	・10月から東京もGo To Travelキャンペーンの対象になったが、10月末になっても北海道からの出発客の動向に大きな変化はみられず、8～9割が道内旅行中心の販売となっている。全国民のワクチン接種が始まり、治療薬ができない限り、安心して旅行に行くことができないため、2～3か月先も現状と変わらないまま推移する。
□	タクシー運転手	・このコロナ禍のなかで、数か月単位で景気は変わらない。新型コロナウイルスの流行以前の状況に回復するには、数年単位での時間が必要になるとみている。状況によっては、今の状況がベースとなった新しい生活様式が浸透することも考えられるため、そうした動きも注視する必要がある。
□	観光名所（職員）	・今後も引き続き低調に推移する。Go To Travelキャンペーンにより国内客が旅行する動きは出てきたが、前年実績を大きく下回る状況は変わっておらず、外国人観光客が戻るまでは厳しい状況が続く。それまでの間、国による継続的かつ効果的な経済施策が望まれる。
□	美容室（経営者）	・今後、新型コロナウイルスの状況が良くも悪くも大きく変化しない限り、現状の売上が続くことになる。外出機会の増減に伴って、当店の売上にも影響が出ることになる。
□	住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの終息がみえない限り、現在のような状況が続くことになる。
▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響が大きく、3か月後もまだ終息の方向に向かっていると考えられないことから、今後の景気はやや悪くなる。客の様子をみても、新型コロナウイルスのことで話が盛り上がる状況にある。
▲	商店街（代表者）	・これから観光のオフシーズンに向かうなか、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるため、今後の景気はやや悪くなる。
▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・Go To Travelキャンペーンによって全国的に人の移動が多くなっており、それに伴って新型コロナウイルスの感染者が増えることが懸念される。状況によっては爆発的に感染者が増えた地域又は国との移動制限が生じることも懸念され、そうなると今年3～5月の緊急事態宣言のような状況となることも考えられる。新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、これからはアクセスとプレーキを使い分けて、感染者を抑えつつ、かつ旅行をしてもらい、金を使ってもらおうということが重要になってくる。
▲	スーパー（店長）	・新型コロナウイルスによる経済への影響が年明けから出てくることが懸念される。
▲	スーパー（企画担当）	・現状は、巣籠り消費に売上が支えられている部分がある。一方、雇用環境や所得環境が悪化していくなかで、特に町村部では急激に通常モードに戻ってきていることから、今後については、年末年始商戦に向けて、都市部も含めて予断を許さない状況となる。
▲	コンビニ（エリア担当）	・各社の決算が出てきているなかで、大幅な赤字決算も出てきていることから、今後も景気の悪化が続く。
▲	コンビニ（エリア担当）	・今のところ、新型コロナウイルスの動向にまだまだ落ち着きが見られない一方で、観光シーズンが終わること、消費について買いためのような動きが見られないこと、貯蓄が増える傾向が見られないこと、給料が上がる様子がないことなどから、今後の景気はやや悪くなる。
▲	乗用車販売店（従業員）	・当業界は11月後半から1月にかけて景気が冷え込む傾向にあるため、今後の動向が心配される。
▲	その他専門店〔造花〕（店長）	・10月については、前年に消費税増税の影響があったため、売上は前年よりも良かったが、今後については不透明である。
▲	高級レストラン（スタッフ）	・例年であれば、冬季に向かって観光シーズンの終わる時期であり、客足が遠のくことになる。また、新型コロナウイルスの感染確認者が増加してきていることから、これから外出が控えられるようになり、景気の悪化を招くことになる。

	▲	観光型ホテル（経営者）	・Go To Travelキャンペーンの期間中ではあるが、北海道はこれから冬季を迎え、個人客の動きが鈍くなる。団体客はより集客に苦勞しており、今後の需要を見込むことが難しい。冬季に旺盛であった外国人観光客の需要も今年は皆無である。また、北海道においては、警戒ステージが引き上げられたこともあり、今後については非常に厳しい局面が見込まれる。
	▲	旅行代理店（従業員）	・紅葉のシーズンが終わり、冬を迎える11～1月は観光需要の端境期に当たるため、観光関連の景気は現状よりも下向くことになる。一方、2～3月については、流氷観光に向けた観光活性化の動きが出ており、そこに原資を投下する必要があるとみている。
	▲	タクシー運転手	・北海道内においては、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されており、感染拡大となれば、年末繁忙期の売上が一気に減少することになる。
	×	商店街（代表者）	・Go To Travelキャンペーンの期間中であるが、観光の閑散期に入った北海道において景気がV字回復する見込みはない。温泉地などでは集客が少しみられるようであるが、都市部の状況は壊滅的に悪い。北海道の都市部は軒並み苦戦しており、観光業界にとっては、これから冬の閑散期を迎えて、会社存続が危ぶまれる事態となる。
	×	スーパー（従業員）	・客の来店頻度の低下によって、来客数が大幅に減少している。今後は客単価が低下していくことも懸念される。
	×	衣料品専門店（店長）	・Go To キャンペーンなどの国の政策で何とか生き延びている業界がある一方で、スーツ業界は立ち直るきっかけもない日々を送っている。新しい商材も仕入れることもできず、手の打ちようのない状況となっていることから、今後の景気は悪くなる。
	×	旅行代理店（従業員）	・現在の新型コロナウイルスの状況から、今後について明るい見通しが立たない。
	×	タクシー運転手	・当地では11月になると雪が降り、年末の忘年会シーズンになるとタクシーの利用が増える傾向があるが、今年は忘年会がほとんど行われないとみられることから、今後のタクシーの売上は10月以上に大きく落ち込むことになる。
	×	タクシー運転手	・北海道においては、誰もが新型コロナウイルスの第3波が生じつつあると感じている。回復傾向にあった景気に悪影響を及ぼすことは確実であり、今後は景気後退の局面を迎えることになる。
	×	タクシー運転手	・Go To キャンペーンの効果有余に感じられないなか、ここに来てクラスターが相次いでいることから、来客数の増加も見込めず、今後の景気は悪化することになる。
	×	タクシー運転手	・当地において、新型コロナウイルスの感染者が生じたことから、年末の会合などをキャンセルする動きがみられている。今後の人の動きは例年以下になると見込まれる。
	×	美容室（経営者）	・景気が回復するまで、早くても2～3年は掛かるとみられる。
	×	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・季節的な問題もあり、今後の観光需要は落ち込むことが見込まれるため、景気が上向くことは期待できない。
	×	住宅販売会社（経営者）	・最近、賃金やボーナスカットに関する報道を時折目にするが、今後は企業の収益減少に伴い、客の所得も低下することが懸念される。その結果、縮小傾向にある分譲マンション市場はますます縮小することになる。
企業 動向 関連  (北海道)	◎	—	—
	○	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・ここ1か月、はっきりとした理由は分からないが、受注が増えていることから、今後の景気はやや良くなる。ただ、2～3か月先までの案件が多く、年度末に向けての中期的な案件が増えているわけではないことが気掛かりである。
	○	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・仕事は多少なりあるが、新型コロナウイルスの影響を受けて、前期と比べて7%ほど落ち込む傾向がみられている。さらに、新型コロナウイルスの感染者の増加傾向に伴い、仕事に制限などが課されることになると状況はますます悪くなる。
	□	食料品製造業（従業員）	・今以上に悪くなる要素もないが、良くなる要素もないため、今後の景気は変わらない。

	□	食料品製造業（従業員）	・価格改定の影響で販売量が減少しており、年明けもこの状態が続くことになる。
	□	家具製造業（経営者）	・社会活動が動き出した影響により、新型コロナウイルスの感染拡大リスクが増大している。一本道で景気が回復し続けるとは考えにくく、当面は様子見の状態が継続することになる。
	□	建設業（役員）	・次年度以降の受注見通しが厳しい状況に変わりはない。また、新型コロナウイルスの影響が長期化することで、設備投資の抑制が避けられない状況となることが懸念される。
	□	通信業（営業担当）	・現在と同様に、新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済活動の共存が継続するのであれば、今後も景況感のやや良い状態が続く。
	□	司法書士	・新型コロナウイルスへの対策として、春先のような休業という意識はなく、積極的な方向へと変わりつつあることから、今後の景気について若干の伸びが期待できる。
	□	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・来年度の工事需要については、特に民間工事での減少が見込まれるが、今後2～3か月については前年並みで推移することになる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今後も新設住宅着工件数の減少が継続する。
	▲	建設業（経営者）	・冬季を迎えて、工事の稼働が徐々に低下するとともに、新規案件の受注が減ることになる。新型コロナウイルスの悪影響もあり、そう簡単に景気は回復しない。
	▲	建設業（従業員）	・道内地方都市においては、民間の発注予定工事がほとんどないことから、大手及び準大手の建設会社では営業マンの駐在を解き、道央圏での受注獲得に当たらせている。
	▲	輸送業（支店長）	・例年であれば、年内一杯はそこそこの物流量があるが、このコロナ禍において、今後の景気が多少なりとも上向き要素がない。
	▲	金融業（従業員）	・Go Toキャンペーンなどの政策効果に加えて、新型コロナウイルスへの慣れが見込める一方で、足元での新型コロナウイルスの感染拡大、悪化基調にある雇用環境及び所得環境、業況低迷により悪化が見込まれる企業の資金繰りなどが道内景気を下押しすることが懸念される。これらのことから、道内景気は3か月前と比べてやや悪化する。
	▲	司法書士	・例年、冬季になると不動産の売買、建物の新增改築工事が減少する傾向があり、今年は新型コロナウイルスの影響で客の動きが鈍いことから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	司法書士	・収入の増加が見込めない状況にあることから、消費に慎重になることが懸念される。これから冬に向かうこともあり、今後も景気の低迷状態が続く。
	▲	コピーサービス業（従業員）	・取引先において、新型コロナウイルスの影響がこれから出てくることを懸念していることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・北海道において新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあることから、客の設備投資意欲が落ちてきている雰囲気がある。
	×	—	—
雇用 関連  (北海道)	◎	—	—
	○	求人情報誌製作会社（編集者）	・年末年始や冬の観光シーズンを迎えることから、観光名所が近い当地にとって、東京からの観光客が見込めるGo To Travelキャンペーンが追い風になる。ただ、当地においても新型コロナウイルスの感染者が徐々に増加しているため、今後の動向によっては状況が一変する懸念がある。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人を出している企業もまだ先行きを見通せない状況であり、少しでも売上を上乘せすべく経営に集中している。中途採用についても、即戦力の人材以外は採用を見合わせている。こうした状況から、経営が安定していないようにはとてもみえない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・このコロナ禍のなか、客の心理的に出控え、買い控えのマインドが強まっており、そのことが飲食店や衣料品店の経営に影響を及ぼしている。そのため、今後の景気は厳しいまま変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・北海道において、新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあることから、今後、経済活動がある程度制限されることが懸念される。

<input type="checkbox"/>	求人情報誌製作会社（編集者）	・ワクチンの開発や普及状況にも影響されるが、これから改善に向かう業界と体力が持たずに廃業や倒産などに追い込まれる業界が二分されそうな危険な状態にある。
<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの影響を受けた宿泊業、飲食業などに持ち直しの傾向がみられており、有効求人数が前年を上回ってきている。
<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・これから景気が若干良くなるとみていたが、新型コロナウイルスの第3波が生じつつあり、警戒ステージがステージ2に引き上げられたことから、楽観のできない状況となっている。一定の制約が生じそうな気配があるため、今後の景気は横ばいでの推移となる。
<input type="checkbox"/>	職業安定所（職員）	・当地における新規求人数は前年比マイナス18.6%、月間有効求人数は前年比マイナス25.3%となり、共に減少している。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で経済活動が低迷していたものの、経済活動が回復傾向に転じていることから、求人数、有効求人倍率も徐々に復調することが見込まれる。一方、一部の業種においては不安要素もある。これらのことから、当面の景気は、現在と同様の水準で推移することになる。
<input type="checkbox"/>	学校〔大学〕（就職担当）	・企業の景況感は大学生の新卒採用状況と直結している。企業の採用担当者と接する学生たちの様子から、今後の景気が上向きになることは期待できない。
▲	*	*
×	*	*